

### 生活道路の路面管理、パートナーシップ排雪、狭小バス路線

## 路面に雪残し排雪に市民負担求める方法見直しを

10月5日 決算特別委員会・除排雪 さとう綾議員

さとう議員は、気候変動と温暖化との関係で除排雪に生かす課題は何かと質問し、市雪対策室長は、大雪に備えて排雪作業を前倒しするなどの対応に努力したと答弁。続いて、生活道路の除排雪で、市が行った圧雪除雪では路面に雪が多く残り、「マンホールとの段差が大きくなり、気温上昇で雪が緩むとたちまち車のタイヤが埋まる、人の足が取られ、歩きにくくなった」ことをあげ、こうした課題への対策をどう進めるのか質問したことに、担当室長は、「住宅の出入り口前の雪処理負担の軽減にはつながった」ものの、「ザクザク路面が発生し、路面整生の回数が増え、除雪事業者の負担が増える」といった課題が確認され、現在進めている生活道路排雪あり方検討の中で対応していくことを明らかにしました。

こうした検討と深くかかわるパートナーシップ排雪制度について、さとう議員は、財政的事情でやめる町内会も出ていることや、自治体の責任である道路の維持管理に関わるものでありながら、公平性とはかけ離れたものになっていることで、「本市が排雪を行う検討を」と要求。対策室長は、「そういった観点も含めまして今後様々な方面からの意見を伺いながら検討」と答弁しました。

最後にバス路線のうち狭小幅員の路線では、バスが運行できず引き返す例があり、学校に送り迎えする保護者に知らされず、子どもがバス停に行って運休がわかった事例を示し、学校とのメールに加えてバス事業者との連携の強化を求めました。

## 大雨で歩道が再陥没、再発防止の強化を

10月5日 決算特別委員会・歩道陥没 吉岡弘子議員

吉岡弘子議員は、平岡公園東と里塚緑が丘の間に位置する大曲通りで、9月5日の大雨で里塚側の歩道が陥没し、土木センターがすぐに対応したものの、12日の雨によって同じ場所が再度陥没した被害について質問。「陥没の規模は幅3m、長さ9m、深さ2mにおよび、幸い事故に遭われた人はいませんでしたが、その規模の大きさに衝撃を受けた」と紹介し、被害の原因と対応、応急復旧後の対策について質問。担当部長は、「1時間当たり最大39.5ミリの非常に激しい雨が観測され、なおかつ道路勾配が一番低い場所であったことがあり、雨水が集中したため、車道が冠水し、さらには歩道からのり面へ越流した状況であります。そのことにより、路肩およびのり面が侵食され、のり面崩壊を起こした」と説明しました。

続いて、「道路敷地内で、このたびこの大曲通りで起こったような陥没やのり面の崩壊を起こす恐れのある箇所はどのように確認しているのか」と質問し、担当部長は、「豪雨等による道路への災害を未然に防止するために、道路防災カルテを作成しており、毎年約300ヶ所ののり面や擁壁について点検し、崩壊等の恐れがないか確認している」と答弁しました。

対策が必要と判断した箇所について、さらに詳細な調査や対策を検討し、順次対策工事を行っているとは市は説明しましたが、今回の被害箇所は、道路防災カルテに載っていない場所であり、防災カルテや点検箇所の見直しをするなど、早急に対策をと要望しました。